

# 児童による主体的な読書活動の推進

竹原市立荘野小学校

## 児童による主体的な読書活動の推進を目指して

本校では、学校目標「夢とおもてなしの心をもった児童の育成」に向けて、次のような読書教育目標を設定し、取り組んでいます。

### 【竹原市立荘野小学校 読書活動の目標】

読書活動を通して、自ら進んで自分の生活を豊かにしたり、学習に役立てたりする児童を育てる。

《読書好きな子》 多くの本を読む機会を設定し、読書の幅を広げる。

《調べる子》 学習活動で学校図書館を有効に活用させる。

《表現する子》 読書に関連した表現の場を設定する。

《本を大切にする子》 本の取扱いや学校図書館のマナーを指導する。

今年度は、《読書好きな子》の育成をメインとして、学校図書館をよりよくする計画を図書委員会の児童と立てました。図書委員会の話合いで、学校図書館に来る児童が少ないことや、児童が借りる本のジャンルが偏っていることが本校の課題として挙げられました。そこで、「全校の皆が楽しみながら様々な本を読める」取組を図書委員の児童が主体となって考えました。

## 図書委員会による取組

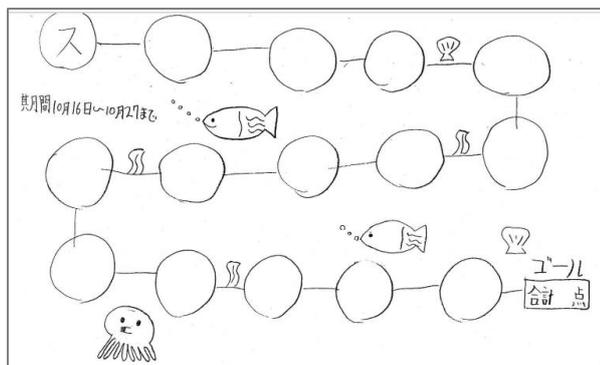
### Ⅰ 図書キャンペーン

本校では、毎年図書委員会が中心となり、「図書キャンペーン」を行っています。

今年度は、委員会の際に「学校図書館に本を借りに来る児童が固定化されている」という意見が出たことを受け、「全校児童が楽しみながら、様々な本を読むことができるキャンペーンにしよう」という目標を立て、計画を進めました。

### 図書キャンペーンのルール

- ・児童に 1枚ずつポイントカードを配り、期間内に本を借り、読むことができた児童は、1冊につき1マス進むことができる。
- ・キャンペーン期間は、2週間とする。
- ・いつもは給食配膳中のみの貸出しであるが、キャンペーン期間中は昼休憩も本の貸出しを行う。
- ・推薦図書は 2ポイント、その他の本は 1ポイントというルールを設け、今まで読んだことのない本にも触れられるようにする。



【図書委員会が作成した図書キャンペーンカード】

キャンペーン終了後の合計ポイントにより、図書委員会が作成したしおりをもらえたり、オリジナルしおり・代本板を作ったりできるような特典も設けました。また、多くの本を借りた児童は、全校の前で表彰を行いました。

## 【図書キャンペーン後の児童の感想】

図書委員や友達におすすめされて、いつもは読まない本を読みました。たまには、いつもと違うジャンルの本を読んでもいいと思いました。

(5年児童)

いつも、借りに行ってなかったけれど、学校図書館に来てみたら、まだこんなに読んでない本があるんだとびっくりしました。これからも借りに来ようと思います。(1年児童)

図書キャンペーンは、しおりがもらえたり、ゲームみたいに楽しく本が読めたりするから、また来年もやってほしいです。(2年児童)



図書キャンペーン中に、こんなにたくさんの方が来てくれると思っていませんでした。友達を誘って本を借りに来る人もいたから、いつもよりたくさんの方が本を借りに来ました。自分たちが企画したキャンペーンで、みんなが本を読んでくれるようになって、嬉しいです。(図書委員会)

また、図書キャンペーンを行う上で、1日に何人の児童が本を借りに来るのかを委員会が調べました。キャンペーン前は1日平均6人でしたが、キャンペーン期間中は1日平均14人になり、いつもの約2倍以上の児童が、本を借りに来ていたことが分かりました。

図書キャンペーンを行った後の委員会活動では、図書委員会の児童から、「いつもより、たくさんの方が来てくれてよかった。」「キャンペーンの内容を考えたり、準備したりするのは大変だったけれど、全校のみんなが喜んでくれたから嬉しかった。」という声が多く挙がりました。図書委員会の全員で図書キャンペーンを成功させたことで自信が付き、「さらにみんなが本を借りに来なくなる学校図書館にしたい!」という思いをもつようになりました。

その後、図書委員同士の話し合いで「キャンペーン終了後は本を借りに来る人が減るのでは?」「もっと、みんなが頻りに来なくなる学校図書館にしたい。」という意見が出ました。そこで、より魅力的な学校図書館にするための計画を立てることにしました。

## 2 学校図書館改造計画

学校図書館をより身近な場所にするために、全校児童を対象にアンケートを取りました。

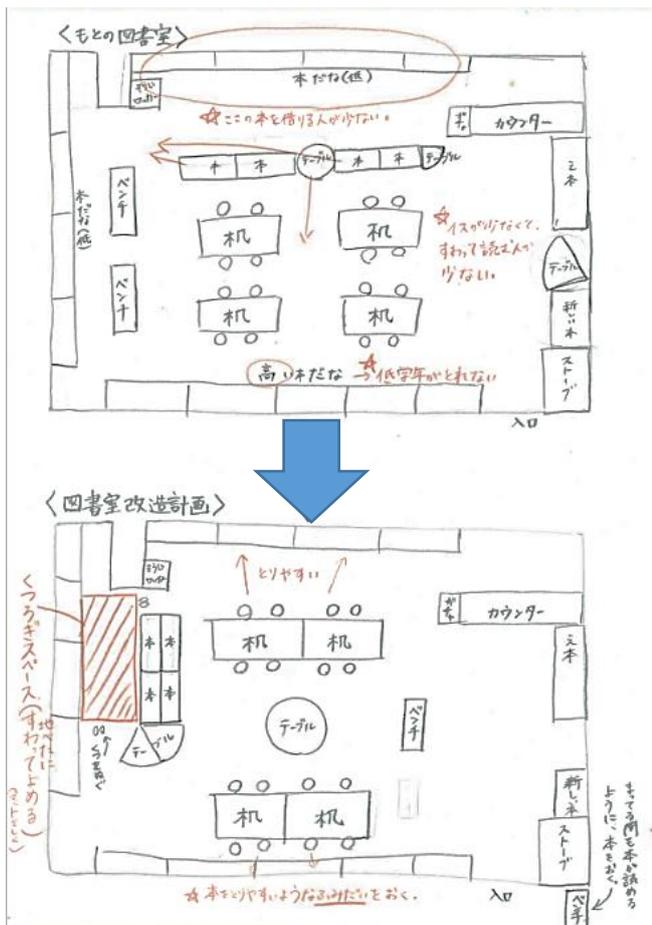
アンケートで出た意見をまとめると、

- ① 床に座って、リラックスして本を読める場所がほしい。
- ② 踏み台を設置して、低学年でも本を取りやすい環境にしてほしい。

という意見が多く出ました。

その意見を基に、図書委員会で「学校図書館改造計画」を立てました。まず、本棚を動かしたり、マットを敷いたりして、くつろぎスペースを設け、くつろいで本を読めるようにしました。次に、踏み台を学校図書館に持って来て自由に使えるようにし、低学年の児童でも高い位置にある本が取りやすいようにしました。

【学校図書館改造計画前後の学校図書館の配置図】



みんながくつろげる場所にするために、マットをしきました。自分の好きなスタイルで本を読めるようにしています。



本を取りやすいように、机の配置も工夫しました。



踏み台を設置したことで、低学年でも高い場所の本を取りやすくなりました。

くつろぎスペースや踏み台を設置し、多くの児童が学校図書館に来るようになりました。特に、今まで本を借りる機会が少なかった低学年も、改造後に学校図書館に来る回数が増えました。

また、くつろぎスペースを作った際、「机の位置を変えたらもっと壁側や窓側の本を取りやすくなるのではないか。」という意見が図書委員から挙がりました。移動させた机の上に、おすすめの本を置く等、本を手に取りやすい環境を整えました。アンケートの意見のみではなく、委員会全体で意見を出し合いながら、より使いやすく、多くの人が来なくなる学校図書館を作りました。

今後は、くつろぎスペースや踏み台の使い方等含め、学校図書館の使い方のルールを掲示し、「本を大切にする子」の育成にも力を入れていく予定です。



今後も図書委員会を中心に、全校児童が 楽しみながら 様々な本を読める学校図書館を目指し、児童による主体的な読書活動を一層推進していきます。